

1. 仙台塩釜港の将来像

<これからの社会における港の役割>

仙台塩釜港は、東北地域を代表する国際物流拠点であり、完成自動車や原油、水産品、セメント、木材チップ、ゴム製品(タイヤ)など多様な貨物を取り扱っています。

東北で取り扱われている貨物の約3割を仙台塩釜港が占めており、国際フィーダーコンテナの取扱量は国内トップクラス(国内第2位 ※2024年速報値ベース)となっています。

仙台塩釜港は、企業活動を支える物流拠点としてだけでなく、地域の産業や人々の暮らしを支える生活基盤でもあります。

<仙台塩釜港の将来像>

国際的なサプライチェーンの変化や脱炭素社会実現に向けた動き及び、働き方改革に起因したモーダルシフトの進展といった港湾を取り巻く状況が大きく変化しています。

このことを踏まえ、今後の仙台塩釜港の目指すべきあり方を検討するため、学識経験者や港湾関係者等を構成員とする「明日の仙台塩釜港を考える懇談会」を令和4年5月に設置し、意見交換を行い、令和6年3月に概ね30～50年先を目標期間とした「仙台塩釜港の将来像・目指すべき方向性」をとりまとめました。

～将来像～

宮城・東北の経済をけん引し、にぎわいと活気にあふれ、自然と共生する強靱な仙台塩釜港



<目指すべき方向性>

- 1) 宮城・東北の経済をけん引する港湾
- 2) 災害に強い強靱な港湾
- 3) 自然環境と共生する港湾
- 4) にぎわいと活気にあふれる港湾

2. 将来像実現に向けた基本戦略

全体コンセプト

仙台塩釜港の全体最適化により、 あらゆるニーズに応える「総合港湾」へ

4港区が持つそれぞれの強みを最大限に生かしながら、港区毎の機能強化に留まらず、ハード・ソフトの両面において連携・補完し合えるよう機能の再編と再構築を図ることで、総合港湾として最適で最高な港湾サービスを提供し、多様化する港湾ニーズへの的確に対応していく。

◆ 港湾の果たすべき使命・ニーズが多様化

◆ 限られた港湾空間の有効利用・最適化

◆ 持続可能で安全・安心、強靱な港湾の形成

あらゆる港湾
ニーズに対して、
4港区が機能を
連携・補完しながら、
総合的に対応して
いく必要

各港区が機能を
補完し合う
「総合港湾」
へ

4つの戦略

戦略1(物流戦略)

宮城・東北の産業と経済を支え、グローバルサプライチェーンに貢献する最高の港湾物流サービスの提供

- ・東北の国際・国内物流拠点として地域経済の成長をけん引する最高の港湾サービスの提供
- ・戦略的ポートセールスの展開

戦略2(防災・施設維持戦略)

BCPが充実した安全・安心で強靱な広域海上防災拠点を構築

- ・災害に強く強靱な広域防災拠点港湾を目指す
- ・総合的な対応により、安全・安心な港湾を目指す

戦略3(環境戦略)

自然環境と共生し、脱炭素社会の実現をけん引するカーボンニュートラルポートを形成

- ・官民連携による港湾脱炭素化の取組を計画的に推進
- ・自然環境の保全・共生を図り、ブルーカーボンの導入も含めた取組を推進

戦略4(観光・交流戦略)

地域の賑わいを創出する東北の広域観光ゲートウェイを形成

- ・広域観光振興に貢献するゲートウェイ港湾を目指す
- ・各港区・地域ならではの魅力ある目的地づくりを推進

3. 将来像を実現するための主要施策

戦略1(物流戦略)

宮城・東北の産業と経済を支え、グローバルサプライチェーンに貢献する最高の港湾物流サービスの提供

主要施策 1 グローバルゲートウェイとして最高のコンテナ物流を実現

- ①需要増加を見据えたターミナルの拡張と利用効率化・高度化に向けた機能再編
- ②ターミナルの省力化・効率化、利便性の向上に向けたデジタル化やAIの導入を推進
- ③多様な貨物需要に対し安定的な輸送を実現・提供する国際海上輸送網の拡充・強化



主要施策 2 国内長距離輸送を支えるユニットロードターミナルの機能強化

- ①フェリー・ROROターミナルの利用高度化や利便性向上の推進
- ②貨物の搬出入やターミナル内移動の円滑化・効率化に向けた施設の再配置
- ③ユニット・バルク貨物との混在解消と将来の輸送力不足を補う港区间連携の推進と機能強化



主要施策 3 臨海部産業の持続的発展を支えるバルク港湾機能の強化

- ①大型貨物船の安全・安心かつ安定的な利用に資する港湾機能の強化
- ②ユニット・バルク貨物の輻輳解消に向けた港区间連携の推進と機能強化
- ③立地企業の動向を踏まえ新たな産業誘致も見据えた工業用地の戦略的な造成



主要施策 4 仙台塩釜港の持続的成長を支える集貨・創貨の促進と港湾人材の確保

- ①仙台塩釜港の国際競争力と総合力を活かした戦略的なポートセールスの展開
- ②DXによるヒトの支援に加え、多様な人材が活躍出来る職場環境づくりとその魅力発信

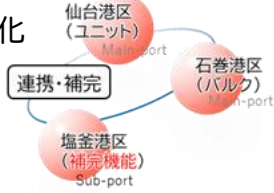


戦略2(防災・施設維持戦略)

BCPが充実した安全・安心で強靱な広域海上防災拠点を構築

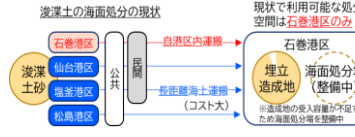
主要施策 1 サプライチェーン維持と海上防災支援を担う拠点機能の強化

- ①耐震強化岸壁等の適切な配置と背後の緊急輸送ネットワークへのアクセス強化
- ②応急復旧作業や緊急物資輸送の基地となる十分な空間の確保
- ③海上保安基地として巡視船を適切に収容可能な空間の確保
- ④港区間や他圏域の被災港湾のバックアップを見据えた港湾機能の強化



主要施策 2 持続可能で強靱な港湾の形成に向けた施設の計画的メンテナンスの推進

- ①被災後の早期機能回復に資する港湾施設の計画的な維持管理の推進
- ②航路・泊地機能を適切に維持するための浚渫土砂海面処分場の確保



主要施策 3 県内外の広域的な支援体制の構築と港湾BCPの充実強化

- ①あらゆる危機的事象を想定した港湾BCPの整備・拡充と実効性確保の取組推進
- ②離島・半島地域を含む広域の海上防災支援を見据えた連携体制の構築
- ③首都圏など東北圏域を超えた物流機能の広域支援体制の構築
- ④将来の気候変動を見据えた心頭のリスク評価と官民連携体制の構築(協働防護)



戦略3(環境戦略)

自然環境と共生し、脱炭素社会の実現をけん引するカーボンニュートラルポートを形成

主要施策 1 国際拠点港湾としての社会的役割を踏まえた脱炭素化の着実な推進

- ①港湾エリアで活動する多様な主体が連携した脱炭素化の取組推進
- ②日本の競争力に資する国内認証の取得
- ③水素・アンモニア等の次世代エネルギーの需要・供給を見据えた環境整備



主要施策 2 自然環境の保全と共生に向けた取組の推進

- ①自然環境や生態系への影響に配慮し、景観と調和した水辺空間の形成
- ②自然環境との共生に向けた港湾利用・開発における環境負荷低減の取組推進

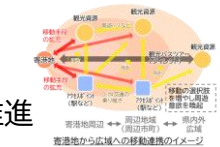


戦略4(観光・交流戦略)

地域の賑わいを創出する東北の広域観光ゲートウェイを形成

主要施策 1 各港区の連携・補完によるクルーズ船、インバウンドの受け入れ体制の強化

- ①需要増大が見込まれる中・小型クルーズ船への対応力の強化
- ②寄港地から日本三景「松島」への海上ルートの活用促進
- ③クルーズ船寄港地から周辺地域間、広域圏への円滑な二次交通の連携・確保を推進



主要施策 2 地域の賑わい拠点となるウォーターフロントの形成と魅力ある観光目的地づくりの推進

- ①みなとオアシスの活性化と港湾エリアの観光・交流拠点機能の強化
- ②各港区や地域の特性を生かした魅力ある観光資源の創出と活用の推進
- ③観光客のみならず、地域住民や港湾労働者にも親しまれる快適な港湾空間の整備



主要施策 3 地域の実情を踏まえた適切なマリッジ環境の推進

- ①放置艇ゼロに向けた安全なマリーナ等の係留場所の確保を推進
- ②自然環境や景観と調和した海洋性レクリエーションの促進
- ③地域住民や他の港湾利用にも配慮した適切なマリッジ環境の構築



ゾーニングの基本的な分類

分類	凡例	利用の内容
物流関連ゾーン		物流ターミナルとして利用する心頭用地、倉庫用地等
交流拠点ゾーン		観光やイベントなど、港湾を通じた国内外の様々な交流活動を推進するエリアや施設用地
生産ゾーン		港湾に関連した生産・加工工場等の敷地、そのための専用心頭
エネルギー関連ゾーン		石油、ガス等危険物を取り扱う用地、そのための係留施設等
緑地レクリエーションゾーン		海洋性レクリエーションのための海浜やマリナー、港湾関係者や地域住民が利用する緑地等
環境保全ゾーン		自然環境や景観の保全・再生を図る空間
船だまり関連ゾーン		作業船、ポートサービス船、観光庁船、漁船等を係留する空間
将来構想		将来の港湾需要に応じて、開発・利用を図る空間

4. 長期的な空間利用方針(ゾーニング)

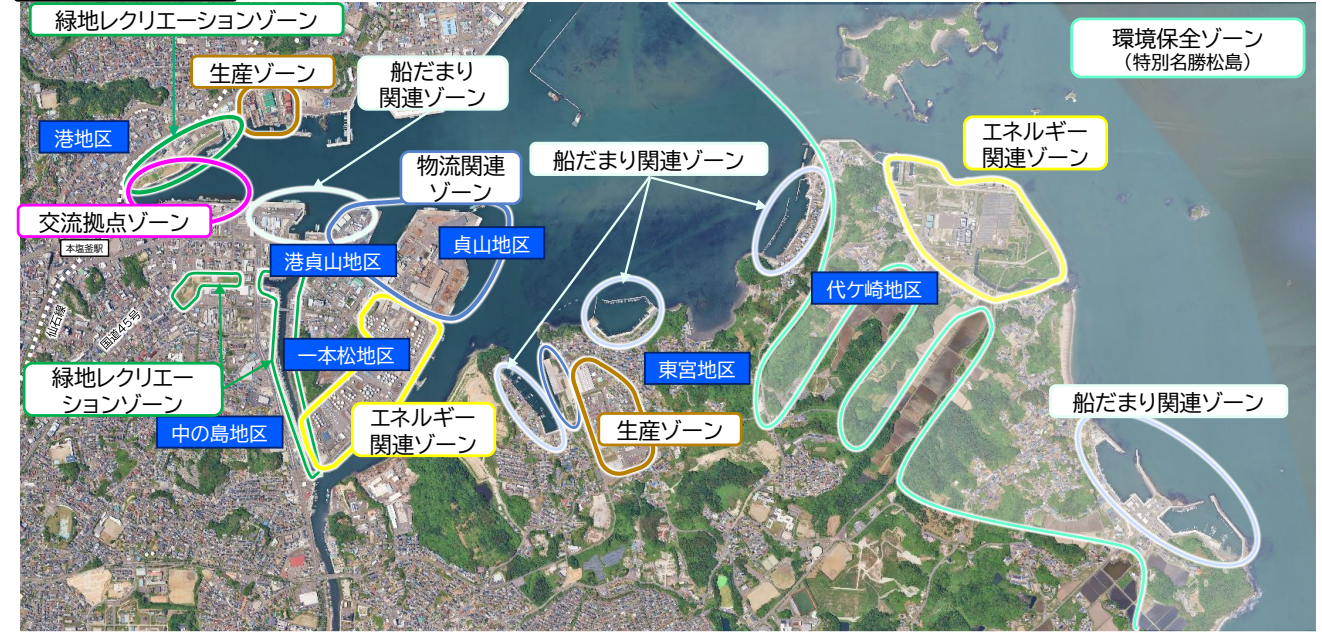
【仙台塩釜港のゾーニングの基本方針】

- ◆ 仙台塩釜港に対する多くの要請を「総合港湾」として一元的に受け止め、全体的に空間利用の効率化を図る。
- ◆ 具体の機能配置においては、現有機能を十分考慮するほか、「総合港湾」における連携・補完の考え方にに基づき、既存ストックを最大限に活用するとともに、新たに必要となる空間利用(開発)を展開する。
- ◆ なお、新たな空間利用においては、長期的な需要見通しを踏まえ、適切に配置するとともに、周辺環境への配慮、自然環境との調和に留意する。

仙台区



塩釜港区



石巻港区



松島港区

